

平成 26 年度事業報告書

社会福祉法人

こどもの国協会

平成26年度事業報告

1. 平成26年度、理事会及び評議員会の開催について

(1) 第68回評議員会

- ・ 日 時 平成26年5月27日(火) 午前10時30分～
- ・ 会 場 こどもの城 9F906室
- ・ 議 案

第1号議案 監事の選定について

第2号議案 平成25年度事業報告について

第3号議案 平成25年度決算について

その他 こどもの国開園50周年記念事業について

上記3案が審議され、承認された。

(2) 第77回理事会

- ・ 日 時 平成26年5月29日(木) 午後 1時30分～
- ・ 会 場 こどもの城 9F904室
- ・ 議 案

第1号議案 評議員の選定について

第2号議案 平成25年度事業報告について

第3号議案 平成25年度決算について

その他 こどもの国開園50周年記念事業について

上記3案が審議され、承認された。

(3) 第69回評議員会

- ・ 日 時 平成26年11月18日(火) 午後1時30分～
- ・ 会 場 こどもの城 9F906室
- ・ 議 案

第1号議案 定款の変更について

第2号議案 役員人事について

その他 平成26年度上半期事業報告

こどもの国開園50周年記念事業の進捗状況

就業規則の一部改正について

上記2案が審議され、承認された。

(4) 第78回理事会

- ・ 日 時 平成26年11月18日(火) 午前10時30分～
- ・ 会 場 こどもの城 9F906室
- ・ 議 案

第1号議案 定款の変更について

第2号議案 役員人事について

その他 平成26年度上半期事業報告
こどもの国開園50周年記念事業の進捗状況
就業規則の一部改正について

上記2案が審議され、承認された。

(5) 第70回評議員会

- ・ 日 時 平成27年3月26日(火) 午後 1時30分～
- ・ 会 場 スクワール麹町5F寿
- ・ 議 案

第1号議案 役員の選任について

第2号議案 平成27年度事業計画について

第3号議案 平成27年度予算について

報告事項

上記3案が審議され、承認された。

(6) 第79回理事会

- ・ 日 時 平成27年3月30日(月) 午前10時30分～
- ・ 会 場 スクワール麹町5F寿
- ・ 議 案

第1号議案 評議員の選任について

第2号議案 平成27年度事業計画について

第3号議案 平成27年度予算について

その他(報告)

上記3案が審議され、承認された。

2. 入園者の動向

年間有料入園者数は843,731人と、前年度より56,337人も増え、平成5年度(1993年度)以降では最高の数字となった。

上半期は、6月から8月まで天候不順で特にプール利用者が落ち込んだが、

それ以外の月が好調で有料入園者数は475,472人と昨年度より16,577人増えた。

下半期は、9月の好調を維持し、12月以外は前年を上回り、スケート利用者が好調で有料入園者数は368,259人と昨年度より39,760人増えた。1月、2月、3月は過去5年間で最高の入園者数であった。

(1) プールの運営状況

事業期間は平成26年7月19日から8月31日の39日間。有料入場者数は78,556人で、前年度より20,691人減った。営業期間が前年に比べ6日間少なかったことに加え、土日の天候に恵まれなかったことが響いた。雨や曇りがちで最高気温が25℃前後と低かった最終の4日間を見ると、前年が11,133人なのに対し、今期は893人と大幅に減った。

(2) スケートの運営状況

事業期間は平成26年12月13日から平成27年2月22日の61日間。有料入場者数は58,649人で、前年度比4,032人増え、1988年以来最多となった。足の骨折による救急車要請が6件発生したが、それほど重大な事故もなく無事に終えることができた。

(3) トレジャーキングダム（リアル宝探し）

新事業として導入し9月13日から開始した。初級、中級の難度に挑戦した利用数は、それぞれ5,447組、2,315組で、想定より5割を超えるほど好評に推移している。地図を手に、謎を解きながら、親子で、グループで宝探しを楽しむ光景が見られた。

3. 主な広報・渉外活動等

(1) ホームページ

ホームページをリニューアルし1月27日に公開した。見やすく利用しやすいと好評である。安定運用を心掛けさらなる充実を図る。スマートフォン用ホームページも新規に立ち上げ、新たなニーズに応じていく。フェイスブック、ツイッターも駆使しイベントPRに努める。

(2) 横浜市立小中学校への「こどもの国だより」配布

4月から横浜市教育委員会のご協力により、横浜市立の小中学校356校に対し、催事告知ポスター「こどもの国だより」の学校配布を始めた。教育委員会を通して学校に配るため、各校には校内張り出しをしていただき、効果的に告知できた。これで園外でのポスター掲示枚数は約900枚となった。他にJAXA講演会のポスター配布などでも協力していただいた。

(3) 出前こどもの国

東急・小田急の駅構内やその系列のデパートなどに出かけ、通りがかった子どもたちに風車の工作を楽しんでもらい、PRパンフレット、こども無料招待券をプレゼントするイベント。26年度上半期延べ13日、下期延べ12日の計25日開催し、月2回開催という目標を達成した。配布したこども無料招待券の利用率は4月末現在で約13%と前年より約3%上がっており、集客効果が高くなってきている。協力していただく東急電鉄、小田急電鉄、小田急バスには、プール、スケートオープン告知のポスターの無料掲示でも便宜を図っていただいた。

(4) 協力企業の福利厚生にこども招待券

協力10企業、2労組にこども招待券を配布し、社員らに配ってもらった。新たに対象としたのは雪印メグミルク、小田急リゾート、新百合丘エルミロード、日産自動車の4企業。配布総数は約3400枚で、前年より1400枚増やした。利用率は10%ほど。子どもが無料ということで、ご家族と一緒に来園していただけることが期待できるため、出前こどもの国とあわせて、こども招待券の配布は、さらに拡大していく。

(5) ダイレクトメール（DM）

春の遠足シーズンを前に、4月、東京都・神奈川県すべての幼稚園・保育園・小学校・中学校にあてて、約5千8百通のDMを発送した。冬のマラソンシーズンを前に、8月には東京都西部と神奈川県東部の中学・高校662校にあてて、マラソン大会誘致のDMを発送した。

(6) こどもの国ニュースの発行

夏休みの8月以外の毎月、年11回発行した。4万7千から9千部印刷し、うち3万7千部は、教育委員会・教育事務所を通じて全国の小中学校に配布、図書館やマスコミ、官庁、企業などにも送付した。朝日新聞、毎日新聞販売店の協力で、横浜市、町田市内で約8千部を新聞折り込みで家庭に配布した。

(7) 特別開園日

春休みと夏休み期間中の水曜日を「特別開園日」とし、入園者の増加に努めた。

4. 平成26年度に実施した主な事業

(1) 農作業体験の催事を展開

みどりのボランティアの協力によりボランティア畑で各種農業体験イベントを開催。ボランティアが育てたイモを収穫してもらい「家族でジャガイモ掘り」「家族でサツマイモ掘り」に加え、カモミールやコスモス狩りなどを実施した。

(2) JAXA講演会

1回目のJAXA講演会を4月6日、イプシロンロケット開発プロジェクトマネジャーの森田泰弘教授を迎え、皇太子記念館で開催した。一般募集した350人が参加した。2回目は10月5日に、はやぶさプロジェクトマネジャーの川口淳一郎教授を講師に招いた。台風18号接近にともなう雨の中、300人の参加があった。

(3) 青空コンサート

近隣の中学校の吹奏楽部が参加して中央広場で演奏を披露する春の青空コンサートを、5月10、11日の2日間開催、延べ19校が参加した。回を重ねるごとに評判がよくなり、4回目となる今回は2日間に拡大した。秋の吹奏楽コンテストに合わせ、10月19日にも青空コンサートを開催、11校が参加した。

(4) ノルディックウォーキング歩こう会

日本ノルディックウォーキング協会のご協力で、公認インストラクターの講師を招いて、平日の中高年の集客対策として5回開催した。平成24年からこれまで16回の開催を重ね、定着したイベントに育った。

(5) サンマを炭火で食べる会

22回目の開催を9月26、27日の2日間、秋晴れのもとで実施した。2日間で2,706人が参加した。女川漁港の女川魚市場・女川魚市場買受人協同組合と気仙沼漁港の気仙沼漁業協同組合から、さんま3,300匹を無償提供していただいた。東京燃料林産、天塩、コカ・コーライーストジャパン、サントリービバレッジ、ミツカンのご協力、ご協賛もいただいた。

(6) こどもの国吹奏楽コンテスト

第33回こどもの国吹奏楽コンテストを10月19日開催した。応募のあった中から抽選で東京・神奈川の小中学校25校の吹奏楽チームが参加した。最高賞の特別賞は横浜市都田中学校が射止めた。

(7) こどもの国少年サッカー大会

第33回こどもの国少年サッカー大会を11月8、9、15日の3日間開催し、東京都、神奈川県近隣6市から選抜された小学低学年(1、2年生)、小学中学年(3、4年生)、小学高学年(5、6年生)の各14チームが参加した。少女の部には6チームが参加した。

(8) こどもまつり

閑散期のイベントとして企画し、3回目を11月29、30日の2日間実施

した。中央広場でシイタケのホダ木からシイタケをもいで炭火で焼いて食べてもらう企画や、竹細工などの昔工作や綿菓子・ポン菓子実演販売、ムクロジの実とホロホロ鳥の羽で羽根つきの羽根の工作などを行った。電鉄系、周辺自治体などのゆるキャラ10体を集め、物産や地域PRのコーナーも設けた。約5千人の有料入園者があり、好評だった。

(9) ウメまつり

2月21日から3月1日までの土日、4日間の開催を計画した。毎年好評のホットミルク無料配布などのイベントを行ったが、天気にも恵まれずに2日間は中止した。

(10) ツバキまつり

椿の森を維持、管理しているみどりのボランティアの活動成果を披露する恒例の「ツバキまつり」を3月21、22日に開催した。椿の花の展示、苗木即売、椿のコサージュ工作、竹とんぼ細工コーナー、椿の木のペンダント、マッシュマロ焼き、焼きしいたけとしいたけ菌の駒打ち「しいたけを育てよう」など多彩なイベントを実施した。切花60種類の展示には、今回初めて金曜陶芸教室受講者の花器作品を使った。

(11) さくらまつり

春休み期間中の平成27年3月28日から4月5日まで連続9日間開催した。期間中に桜が見ごろを迎え、来園者に楽しんでいただいた。50年前の昔遊び、焼きマッシュマロ、ポップコーン作りをする「野外炊事場でクッキング体験」、サクラ型かざぐるま工作、羊の毛刈りショー、お祭り囃子など多彩なイベントを実施した。

(12) 地域との連携について

- ①横浜市青葉区役所で11月3日開かれた「青葉区民まつり」に模擬店を出し、園内で採れたギンナンを販売、無料のかざぐるま工作を開いた。
- ②こどもの国周辺の17の自治会から成る「奈良町連合自治会」が実施する「親と子の集い」を開催、無料入園で利用していただいた。プール（7月28日）とスケート場（12月13日）も無料で開放、地域との連携を図った。
- ③青葉消防署による「自衛消防操法訓練」「消防隊員の消防車両の走行訓練」、青葉区保健福祉センター注射（1回）の会場として駐車場を無料で提供した。11月9日には「AOBA 防災フェア20th（ハタチ）」の会場として利用して

もらい、ヘリコプターとの連携訓練、はしご車乗車体験などによる防災意識向上に協力した。

(13) 総合的学習の一環として実施されている職場実習体験の受入れ

町田市及び横浜市等の中学校生徒を受入れ、牧場での牛舎清掃、改札や駐車場での作業、雑木林の清掃や散策路の整備などの体験をしてもらった。24人が1日から4日間にわたって行った。

また、近隣の高校生や農業大学生など計75人を、1日から1カ月半の職場体験として受け入れた。園内の竹林整備作業を生活活動の一環として取り入れている、地元の奈良小学5年生を受け入れた。

5. 助成等による主な事業

(1) こどもの国春まつり、秋まつり（朝日新聞社助成）

春まつりをゴールデンウィーク期間中の5月3日から6日の4日間開催し、テレビ番組でおなじみのヒーローショーや本格的な大道芸パフォーマンス、自ら楽しむ「大道芸に挑戦しよう」など、多彩なイベントを楽しんでいた。

秋まつりは10月11日から13日の3日間開催した。テレビで人気のヒーローショーのほか、家族みんなで汗を流す「秋の体力測定」やフラフープ、けん玉、なわとびなどに挑戦していただいた。

(2) ジャンボカルタ取り、どんど焼き（テレビ朝日福祉文化事業団助成）

1月2、3、4日に恒例のジャンボカルタ取り大会を開催した。どんど焼きは、例年会場となる中央広場が改修工事で使えなかったため、多目的広場に会場を変更して1月12日に行った。先着300人の子どもたちに焼きイモをプレゼントした。

(3) 児童福祉施設駅伝大会（資生堂社会福祉事業財団助成）

11月15日、神奈川県内の児童福祉施設の子どもたちが参加する「児童福祉施設駅伝大会」「児童福祉施設女子駅伝大会」が開かれた。

1月17日には同じ施設の子どもたちや職員が参加する「養護施設卒業生送別マラソン」が開かれた。資生堂社会福祉事業財団は、区間賞メダルやドリンクを提供。こどもの国も後援し、施設や設備利用料などを免除した。

(4) 牧場まつり（雪印こどもの国牧場主催）

11月2日、3日と、前年度より一日多く開催された。羊の干支にちなみ羊と記念写真、羊レースのほか、牧場スタンプラリー、バターづくり教室、チーズづくり教室、紙芝居や試飲、試食などのイベントやソフトクリームの

早食い競争が行われた。

6. 催事の実施状況

年間通じて数多くの催事を開催した。(別表「2014年度こどもの国の月別催事」を参照)

7. 助成等による施設整備

(1) 国庫補助事業

皇太子記念館と中央広場、給水施設整備の改修工事を行った。皇太子記念館は、平成16年以來の改修で、屋根の塗装の剥離、水漏れが著しいことから屋根の塗装・改修をはじめ、屋根下土間の改修、照明・内装・トイレの改修工事を実施した。5月28日に開かれる開園50周年記念式典の会場となる。

中央広場は、路盤の老朽化が進んだことから33年ぶりに改修し、花壇、路盤のカラー舗装、イベント広場の設置等の工事を実施し、利用者の安全を確保した。

こどもの国は広域避難場所に指定されていることもあり、災害時の飲料・雑用水の確保のための危機管理の整備として、高置水槽など給水施設の改修工事を実施した。

(2) 自主事業

開園50周年を迎えて、管理棟、正面陸橋等の化粧直し及び案内看板の整備など、正面入口改札周辺の改修を行った。日本産の七段花(しちだんか)をはじめ、北アメリカやヨーロッパ原産のアジサイ25種3千株からなる「あじさい園」を新設した。

また、樹木名札を内周道路をメインに設置した。

8. その他

○ 東日本大震災の被災者支援

平成23年3月11日の大震災以降、こどもの国は被災者に対し、入園料金、夏季のプール及び冬季のスケート利用料金を無料としている。被災者支援を行う各団体(NPO法人等)にも可能な限り協力している。

放射能線量がいまだに高い地域に住んでいる福島の子どもたちを神奈川に招待し、「緑豊かなこどもの国で自由に遊ばせたい」と要望があったため、研修センターの宿泊料金も無料として対応した。平成26年度の利用者数は、入園者302人、宿泊者77人だった。

○ バーベキュー場の外部委託

4月からバーベキュー場の運営をデジサーフに委託した。これまでできなかった7、8月の営業が可能になり、11月までの8カ月間で23,174人が利用した。

幼児は無料のため、全体の82%が大人の利用だった。

直営していた前年度までは年間7カ月営業し、テーブル単位の利用であったため単純比較できないが、約1万人弱の利用者数と推定でき、委託後の利用者数は前より約5割増となった。